



また15分以上連続で使うとモーターが焼け壊れるタイプなので、途中で一服させないとイケません。
 手作業では、鉋かけ、カット、溝切り、紙ヤスリかけ、1cm以下の小さい部品はセロテープで張り合わせて細部の溝切りをします。このような木製部品作りの工程が20以上あります。
 それ以外にも、江戸打ち紐組み、リリヤーン編み、帯紙、表示紙の文字印刷、幕紙、台紙カット、台紙の穴明け、と言った部品の加工もしなければなりません。それらを組み立てる作業は22工程もあります。文章よりも写真で見てくださいの方が良いと思います。
 神社に納めるお守りという事もあり、怪我の無いようにと、集中力と持久力のかかる大変な作業です。
 私は、この仕事に誇りを持ち、ボランティア精神と共に末永く続けさせていきたいと希望しております。



この布団太鼓台のお守りは、元理事の大和真次(97)さんが20年ほど前に考案され、生まれました。枚岡神社神域の杉の木をいただいて作っています。
 部品の加工は丸木をチェーンソーで伐ることから始まり、大きく柱や板にして木目を選び、ミリ単位の部品に加工されます。この作業に使う卓上タイプの電気のかぎりの扱いが難しく、作業のそばで絶えず掃除機でオガくずや鉋くずを掃除するなど、細やかな配慮が必要です。

布団太鼓台のお守り
 木工班 今井 喬子

